vinetur

イタリアワイン、2026年上半期に新興13市場で輸入額5.9％増

Nomismaによると、全体のワイン輸入額が3.7％減少するなかで上回る伸びとなり、輸出業者にとって米国市場の低迷を部分的に補う動きとなった

2026年11月18日（水）



Nomisma Wine Monitorが11月17日（火）にローマで発表した分析によると、2026年上半期、対象となった新興13市場ではワイン輸入全体が減少した一方、イタリアワインの輸入額は増加した。

調査によると、2026年上半期の対象13市場におけるイタリアワインの輸入額は5.9％増加した一方、同じ市場のワイン輸入総額は3.7％減少した。これらの数値は、イタリアワイン文化をテーマに11月17、18日にHorti Sallustianiで開催されたイベント「Win&」に合わせて発表された。同イベントはConsorzio Italia del Vinoが主催した。

このデータは、イタリアの生産者を取り巻く国際需要に明暗があることを示している。一部の新興

市場では拡大が続く一方、多くの輸出業者にとって重要な米国市場は大きく落ち込んだ。2026年1～9月、米国のイタリア産ワイン輸入額は18.4％減少し、米国のワイン輸入総額も18.1％減とほぼ同水準の落ち込みとなった。

こうした対照的な動きは、輸出リスクの分散を図る飲料企業やワイングループにとって重要な意味を持つ可能性がある。長年米国市場に依存してきたワイナリーにとって、新興市場の伸びは販路多角化の余地をもたらし得る。ただし、成長は市場ごとにばらつきがあり、それだけで主要市場の低迷を完全に補えるわけではないこともデータからうかがえる。

Nomismaの分析は、複数の市場における長期的な成長も示した。2015年から2025年にかけて、イタリアワインの輸出額はルーマニアで507％、トルコで325％、ベトナムで264％増加した。同期間の世界全体の伸びは45％だった。

ブラジルも全体の傾向を上回った市場の一つだ。2026年1～9月、同国のイタリアワイン輸入額は6％増加し、ブラジルのワイン市場全体の伸びである2.1％を上回った。

これらの数値は、イタリアワイン業界の変化と、国内のワイン供給網における発展の可能性を検討するために企画された2日間の会合で発表された。Consorzio Italia del Vinoには、合計売上高が18億ユーロを超えるイタリアのワイン企業24社が加盟している。同イベントで示された情報によると、同団体はイタリアのワイン輸出部門の約15％を占める。

調査には国内市場の指標も含まれていた。Nomisma Wine Monitorが引用したIstatのデータによると、2025年にイタリア人口の39.3％が日常的にワインを消費していた。大規模小売チャネルでは、Metodo Classicoのスパークリングワインの販売量が、2026年1～9月に前年同期比で12.3％増加した。